小美玉市の歴史を知ろう 56

頼朝の佐竹討伐と大矢（大谷）橋事件

大矢橋（小美玉市大谷）にやってきましたが、広常は、互いに家人を退けて二人だけで話そうと橋の中央に義政を呼び、そこで義政を殺しました。義政の従者は、うなだれて降伏したり、慌てて逃げ帰ったりしました。（**吾妻鑑**）

翌5日には、頼朝の軍勢は金砂城に籠城した秀義を攻め、これを敗走させることに成功しました。

義政の首塚と胴塚

国道355号の園部川に架かる新大谷橋は石岡小美玉スマートICの整備に伴って架設されました。その橋の脇にある小さな塚は「義政の首塚」（石岡市正上内）と伝わっています。また、棺桶に入れられた義政の胴体は、園部川約2kmの下流で拾い上げられて埋葬されたと言われています。

新大谷橋と義政の首塚

佐竹討伐

治承4年（1180年）8月、平家討伐のため、伊豆で挙兵した源頼朝は、富士川の戦いで勝利したのち、平家を追って京へ攻め上がる命令を下しました。しかし、上総介広常らの進言を受け入れ、「佐竹討伐」へと向かいました。なぜなら、平家の**知行国**であった常陸は、いまだに頼朝と対立していた佐竹氏が支配していたからです。

大矢（大谷）橋事件

同年11月4日、兵を常陸国府（石岡市）まで進めた頼朝は、軍議を開きました。その内容は、「佐竹義政・秀義兄弟を常陸国府の近くまでおびき寄せて、縁者である上総介広常が誘殺してから佐竹の本拠地、常陸奥七郡を攻める」ことでした。

広常は佐竹義政・秀義兄弟に会見を申し入れましたが、秀義は、「父隆義は平家方にあり、すぐには参上できない」と言って金砂城（常陸太田市）に引きこもってしまいました。**帰順**を受け入れた兄の義政は、

千勝神社

没後700年にあたる明治14年（1881年）、小美玉市大谷の県道石岡城里線近くに「胴塚」がつくられ、義政を祭神とした「千勝神社」が建立されました。明治15年、大正元年には、近在の人々から寄付があり、供養祭を執り行った記録があります。現在、千勝神社は、首塚の対岸にある大谷公民館付近に移転されており、明治14年の胴塚は残っていません。

語句解説

知行国　皇族や上級貴族などに支配権を与えられた国。平家は30余国の知行国があった。

軍議　作戦など軍事に関する相談。

帰順　反逆や抵抗をやめて服従すること。

吾妻鑑　鎌倉幕府の正式な歴史書。成立時期は鎌倉時代末期。

義政の胴塚
（昭和30年代ごろ撮影）
『図説石岡市史』より

現在の千勝神社

千勝大明神　木版画像

問い合わせ　生涯学習センターコスモス　☎0299-26-9111